

「今月の1枚」



写真1 林床に更新した若いシコクシラベ。ササが密生した場所は更新できない。



写真2 シコクシラベの葉。モミよりも柔らかく触っても痛くない。



写真3 縞状に更新しているシコクシラベ。斜面沿いに樹木が列状に枯れ、その下で若い個体が更新している。右上にも枯れた木の列が見える。こうした現象は「縞枯れ」と呼ばれ、本州の亜高山帯ではもっと大規模なものが見られる。



写真4 シコクシラベの樹冠。これはかなり大きな個体。

シコクシラベ（マツ科モミ属） *Abies veitchii* var. *sikokiana*

四国の標高約1700m以上（石鎚山系と剣山系）に出てくるモミの仲間。氷河期の遺存種で、日本で最も

南に位置する亜寒帯林を構成しています。本州のシラビソ（シラベ）*Abies veitchii*の変種とされていますが、区別する必要はないという議論もあります。石鎚山系のシコクシラベは大きな個体が少なく（大きくても胸高直径50cm、樹高15m程度）、枯れている個体も多い一方で、若い個体も多く更新しています。高知県と徳島県では絶滅危惧II類（VU）、愛媛県では準絶滅危惧（NT）に指定されています。

（写真・文 酒井敦 2012年10月石鎚山で撮影）

（No.234 2012.10.10 掲載）